

ひだまり通信

VOL— 2 2 6 (隔月1回発行) 令和3年7, 8月 特別号

関連団体<NPO法人>
志民アシスト
ネットワーク



いよいよ「西川口」で発行する最後の通信になりました。

2000年9月にオープンして以来21年間、紆余曲折、いろいろなことがありましたが、おかげさまで次の活動の場所が決まり、9月から始動しますので、これからも変わらぬご支援をお願いします！

【ひだまり】

月曜日～金曜日
10:00～17:00

【安心おとどけ隊】

月曜日～金曜日
10:00～17:00

前号でもお知らせしましたが、西川口での「ひだまり」の店舗は、建物の老朽化に伴い全戸取り壊しのため閉店、8月25日に引越します。

そのため、7月30日(金)までの営業となります。

新店舗の場所は、西川口駅東口から徒歩10分の築45年の昭和レトロ(*^_^*)の1軒家です。

西川口から地域が変わってしまうのはとても心苦しいのですが、新天地で心機一転、頑張っていきますので、これからもどうぞよろしくお願いします。

9月はカルチャー教室と安心おとどけ隊事務所のみ開催、10月から本格的に開店します。

ギャラリーやお茶が飲めるスペースもありますので、皆さま、どうぞ気軽に遊びに来てくださいね！！お待ちしております。



***「ひだまり」は、2000年にオープンした、皆がホッとくつろげる“民間の公民館”です。

飲食・物販・イベントの他、「NPO法人志民アシストネットワーク」と連携し、地域支え合い活動やよろず相談などにも取り組み、「自己実現」「いきいき暮らす」「社会貢献」のための活動をしています。***

長い間、支えてくださった皆様、ありがとう！！

山田たみこ

【ひだまり21年の軌跡】

21年間、いろいろなことがありました。くじけそうになりこともたびたびありましたが、そのたびに皆さんに温かい言葉をかけていただき「もう一度がんばってみよう…」と思い直し、ここまで来ました。と、カッコつけてみましたが、「やっぱりみんながワイワイあつまってくるひだまりにいると楽しいから(*^_^*)」だけなんですけどね。この機会に少しだけ、過去を振り返って懐かしんでみようと思います。どうぞお付き合いください。



【Part-1】2000年～2008年

ひだまりは2000年9月7日、みんなの居場所「コミュニティサロン・ひだまり」としてオープンしました。

山崎工務店さんに秩父産の木を伐りだしていただき、梁と大黒柱をつけた木の香りがする山小屋風のステキなお店でした。

そのころはコミュニティサロンとかコミュニティカフェなんて言葉もなかったころで、「喫茶店ではないの?」「カルチャー教室でもないの?」「レンタルボックス(当時は棚を貸し出して手作りの委託品を預かっていました)でもないの?」いったいなんのお店??と言われ、そのたびに表現に窮していました(*^_^*)

そこで思いついたキャッチフレーズが『民間の公民館』『みんなの居場所』でした。

みんながそれで「ああ、なるほど」

その2、3年後には、全国のあちこちで「コミュニティサロン」ができて始め、地域の居場所に注目が集まるようになりました。

私も、いろいろなところに呼ばれてひだまりの活動を紹介したり、視察に来てくださる団体や個人も多く、なんと山梨や神奈川から観光バス!(こんな狭い場所に来たんですよ!)で来たこともありました。

そのころは、調理免許を持った料理上手なスタッフがいたので、日替わりメニューのランチも出していましたし、店内が広がったので、歌声カフェや落語会、コンサートも開催しました。懐かしい…

スタッフ＝山田たみこ、村田照美、高木靖子、牧田明子、桜井尚子
そのほかティンカーベルの皆さん(菊池八重子、鈴木敏子、原谷美枝子他)



【Part-2】2008年～2012年

カルチャーや手作り品の委託販売は継続、調理担当の村田さんが田舎で暮らすためにひだまりをやめたので、ランチメニューから喫茶・軽食メニューに切り替え、スタッフもあたらしいメンバーが加わりました。

そのころは2002年から始めた海外支援にも力を入れ、ラオスやインド、スリランカ、ネパールなどに子どもたちの文房具等を届ける活動も続け、多くの方にハッピーバッグのご協力をいただきました。

地域支え合い活動「安心おとどけ隊」を始めたのは2009年。事務所がひだまりの2階にあったのですが、2011年3月11日、忘れもしない東日本大震災があり、事務所の本棚の資料がほとんど床に落下、築60年で壁面に亀裂の入っていた公団の2階から、「なかにいたのでは危ない!」皆で声を掛け合って転がるように道路の向こう側まで避難したことを思い出します。

スタッフ＝山田たみこ、伊藤フヂエ、岩崎かほる、大石瑠璃子、小山郁子、高木靖子
安心おとどけ隊＝山田たみこ、関純子、杉山英雄、羽賀誠記、原田愛美、田辺淳子



たくさんの楽しい思い出をありがとう！！ 過去から…そして将来へ

すべての方々
敬称略



【Part - 3】2012年～現在

東日本大震災後、耐震の強化のため鉄筋の筋交いを入れる工事をする事になり、店内をすべて空っぽにしなくてはならず、2011年10月～9か月間、西川口駅東口のマンションの6畳の一室で安心おとどけ隊の業務と一部のカルチャーだけ行いました。

この時に、TBSラジオの「大沢悠里のゆうゆうワイド」の毒蝮三太夫さんがお店訪問のコーナーで来てくれたのですが、なんたってお店ではなくマンションの一室、それをお店でやっている風を装い(笑)、さらに、いつもは生放送なのですが、お正月はお休みだからと特別に年末に1月放送分を録音したため口裏合わせて(笑)、三太夫さんが「初詣はどこにいったの？」スタッフが「佐野の厄除け大師に行ってきました！」なんて答えたこともありましたっけ。

耐震工事が終わった後、また戻ってお店をやるのか、もうやめてしまうか…、迷ったのですが、待っていてくださる方も多く、広さは3分の2ほどになってしまうけど、もう1度頑張ってみようと戻ることにしたのが、2012年9月のことです。

そこから、今の業態のひだまりがスタートしました。

「もったいない！」をモットーにリサイクルに力をいれるようになり、多くの皆様にご協力と品物のご提供いただき、8年間1度も品物が無くなることなく、お客さんに提供することができました。

安心おとどけ隊の活動も認知度がUPし、川口市の介護保険課、長寿支援課、社会福祉協議会、地域包括支援センター、各病院や施設、介護事業所などとも連携し、**累計〇時間のサポートを達成**、現在も多くのサポーターさんが活躍してくれています。

現在のスタッフ＝山田たみこ、杉山英雄、桜井尚子、羽賀誠記、阿部ハル江
ひだまり通信コラム執筆＝
佐藤玲子、坂上博（長い間、素晴らしい原稿をありがとうございました）

【さて、さて、これからの「ひだまり」は・・・】

昨年、立ち退きの説明会で「市では次の店舗の紹介とかはいたしませんので、自力で探してください」と言われたあと、このエリアから出ずになんとか店舗を見つけたいとずっと探してきましたが、狭い、家賃が高い、遠いなど、どれも帯に短しタスキに長しで、五里霧中。耐震工事に続き、2回目のこのままやめてしまおうか…だったのですが、「次はどこで？」と多くのかたに声をかけてもらい、あきらめないで探してみようと思うに至りました。

そんな折、青木公園近く西川口駅徒歩10分の西青木4-3-30の1軒家を借りられることになりました。築45年と古いのですが、広さと部屋数があるのが魅力。

ここでは、カルチャー、ギャラリー、喫茶、貸ルームや貸キッチン、安心おとどけ隊の事務スペースを設け、「うちコミュニティスペース・ひだまり」として、9月から再出発します。

なんせ、住宅街の普通のおうちなので、入りにくい雰囲気か…

そこで気軽に入ってもらうため、随時「おしゃべりカフェ」や「楽しい講座」、作品展などを企画していきますので、どうぞ楽しみにしてくださいね。

まずは、10月4日(月)～29日(金)まで、着物リメイク「こまゆの会ひだまり 作品展即売会」を開催します。ご期待ください！！

これからも
よろしくおねがい
します 

「ひげじい ひだまりに流れ着く」



それまで「会社」の中でぬくぬくと生きていた輩がいきなり厳しい世間に放逐され、数年の放浪のうち「ひだまり」に流れ着いたのは平成21年(2009)4月20日のことでした。

当時のひだまりはコミュニティカフェの走りとして知る人ぞ知る、流行りの「居場所」だったのです。カントリ風の店構えて店先に設けた小棚には手造りの小物などを並べた小洒落たお店。ドアを開けると手造りの木のテーブルが並ぶウッディーな雰囲気にあふれたお店でした。



そして何より「女の園」。だって客層はほぼ女性。女店主以外に5人程いたスタッフもオール熟女。百花繚乱の花園に場違いなおっさんが一人突然現れ居着いたんですから、皆さんさぞびっくりしたことでしょう。

しかし当人は幼少の頃より女性に囲まれた環境でそだってきたせいか?たいして違和感持たなかったんです。しかし手持無沙汰は困ったもの。何かやることないか?と見渡してみると…店の奥に大きな蜘蛛の巣があるじゃありませんか。早速の初仕事がこの「蜘蛛の巣退治」。それから店の前の飾り棚の修理や裏の物置スペースに雨よけの屋根を造作する等やることを見つけ出しては手仕事を黙々とやっていましたねえ。

さてあの頃の事で思い出すのが「賄い飯」です。なにせそれまでのランチといえば、昼に外に出て、自分の好きな物を食べる。こんな普通の当たり前の昼飯でした。それが一転「あてがいぶちの昼飯」!何が辛かったのかって…まず「量がお皿にほんの少し」(当時まだ50代の食べ盛りだったの)そして「おかずもほんの少し!」(主婦のお昼って、こういうのが普通だったんでしょうからね)そんなに不満なら食べに出ればいいじゃないと思うでしょ。それが出来なかったのよ～。出されたものを文句を言わず、ただ食べるだけなのでした。

当時の自分の居場所は2階の一室。そこをDIYで事務所の形に手を入れました。さあこれから何をしたいこうか?と思案していると埼玉県が推進しようとしていた「地域支え合い活動」のことが眼にとまったの。やることが無かったから?たまたま眼についたから関わることになってしまったのか、人生の変節は突然にやってくるのでした。「万物は流転する」やると決めたら猪突猛進!するのが常。この活動を具体化するためにどうしたらいいのか?と検討を一

人で始めました。福祉関係の資格を持つ者など 誰一人いず。実務経験を持つ者すら居ないメンバーだったのに、これからの地域社会に絶対必要な活動で、自分達だってやれば出来る! そんな確信めいた「志」に突き動かされての決断だったのかもしれない。なんとか志民アシストネットワークのNPO組織として取組むことに賛同が得られ、埼玉県福祉部に初めてアタックしたのが2009/6/26のこと。

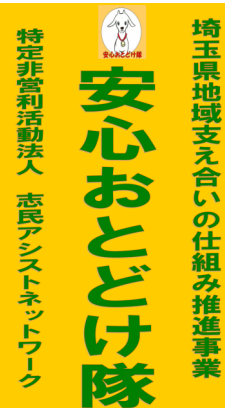
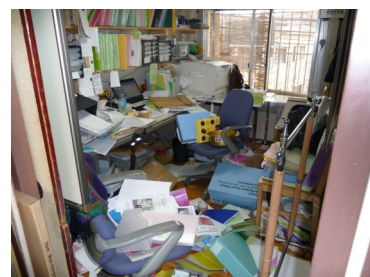
私たちを迎えた県庁の職員は「経験もない?福祉関係の資格保有者はゼロ、実務経験者もゼロ、そんな小さなNPOが単独で取り組む?」と知り驚きと懐疑の眼差しでいぶかしんでいたことと思います。でも何回も県庁に足を運んで強い熱意で喰いついた甲斐があつたか?あるいは応募する団体が多くなかったという幸運のせいかな?ついに県の指定事業として助成を受けられることが決まったのです。

しかし安心おとどけ隊の設立は何一つ無い零からのスタートです。県の助成申請書類を作りながら、「ルールや指示書報告書の様式類そしてポスターやチラシ」など全てを一つ一つをコツコツと手作りしていったのでした。

さて2009/11から活動開始と決めましたが、まずは実際に現場で支え合いの活動に従事するサポーターが居なければ成り立たないので、ひだまりに関わっていた方々にお願いして掻き集めた数字上の人数が23人。なんとか急場をしのいで、このサポーター数で活動開始したのでした。事業を始めた月のサポート時間は「たったの4時間」。しかし開始から9ヶ月後の2010/7には100時間を超える依頼を頂け、その後は急成長して行くのでした。

地域支え合い活動は有償ボランティアのサポーターなしでは成り立ちません。そのサポーターも利用する人達も「ひだまり」という居場所の場があってこそ、安心おとどけ隊の存在と活動を知ってもらうことができ、広がっていくことができたのです。

この西川口エリアでの「地域支え合い活動」の拠点「ひだまり」で12年間の歳月を駆け抜けた…よそ者のひげじいがお役に立ったのであれば幸いです。これからも末永く精進してまいります。



「昭和は遠くなりけり」 ひげじいのノスタルジア 最終回

思春期は遠い昔のことなので、その記憶のほとんどが片隅に追いやられ忘れ去られているのに、書いているとなぜか不思議なもので少しづつあの日の記憶が滲み出てくる。中1の時、同じクラスの女子の姉さんが教室も近かったせいか休み時間に頻繁に妹のところに来ていたので、いつしか仲良くなつて話すようになったの。同級生の子は眉も眼も濃い子だったけど、その姉さんは清楚な感じで妹と全く似ていない姉妹だった。快活で明るい気性の女の子だったので、いっぺんに引かれてしまったのです。この年上の女の子への想いは初恋のひとつなのかもしれません。でもまだ幼い中1の少年だったせいか、その先の発展なんて何ひとつ生まれず、年上の彼女は卒業していったのでした。でもこれがキッカケになったのでしょうか？ 大人になってからも自分より大人びた人女性に気をひかれるようになってしまったのでした。

3年生になったばかりの頃、なぜか演劇部にスカウトされて入部したのです。男子部員が一人もない女子だけのクラブによくも入部したもんだと、自分でも当時の決断に驚くの。そして男は一人だけなので、名前だけの演劇部長にされて…卒業前の時期に行われる予定の板橋区中学校連合学芸大会に出演することとなるのです。まずは演目の勉強をすることがクラブ活動でした。顧問の先生の指導で原作の読み込みや状況と背景の理解を深めるための話し合いなどが続き、初めての文科系のクラブ活動を結構楽しくやっていました。演目は「夕鶴」と決められていて、男の出演者が足りないため、もう数人男子部員が欲しいと顧問の先生から言われ、男子部員獲得のため嫌がる友達を強引にスカウトして巻き込んだものでした。そして「夕鶴」の準主役「与ひょう」役に抜擢されたのですが、演ずることは初めてだし、右も左もわからないので顧問の先生に言われるままに練習に明け暮れたのでした。今思い返すと、初めから顧問は「与ひょう」役を求めて私をスカウトしたのではないのでしょうか？

「夕鶴」の主役で「与ひょう」の相手「つう」役には同じ学年の女の子が選ばれました。1年生の時から演劇部に在籍していて、とても演技力のある子で、エキゾチックな愁いを含んだおとなしいけど情熱のある娘でした。練習を重ねるにつれ彼女の演技力が自分と比べて格段の差があり、とてもかなわないレベルの人であることを認識して、次第に彼女自身の素晴らしさに惹かれていく自分がいたのです。でもこれはたぶん恋心とは違った感情なのではないでしょうか。己の持ちえないものを身に着けた人への畏敬の念だったのかも知れません。



毎日暗くなるまでの稽古で、初めは好きになれなかった「ドラン」(舞台演劇用の化粧品のあの匂い)に、なぜか気持ちが昂るように変化していったのです。自分でも不思議なくらい舞台で演ずることに惹かれていきました。本番でのステージ。ラストのセリフやスポットライトを浴びた時のあの震えるような昂りは脳裏から消え去ることはありません。相手の「つう」役を演じた女の子は、その後プロの役者目指してどこかの劇団に入ったらしいけど、その後の消息は耳にしません。私自身も舞台に魂をつかまれてしまい演劇界に身を置く羽目になっていたのなら全く違う人生を歩んでいたことでしょう。

思春期は女の子との距離が急に近づいたりする一方、同性の親友が出来てくるものです。中3で同じクラスになり、家も近かったせいか急速に仲良くなつていった男の友達のことを思い出します。登下校も一緒なのに、話足りないときには近所の銭湯に行つて湯船に出たり入ったりしながら何時間も浴槽の縁に腰かけてダべつてたものです。あんな何時間か…一体何を話していたんだろう？ 今までの友達とは一味違ったタイプだったことは確か。まだ子どもだった私と違い行動派だった奴。良いも悪いも大人になる

に向かう時期にいろんな体験を奴とともにしていくことになるのでした。しかし人生はわからないもので、病気やケガ一つしなかった奴は27歳の時に事故でこの世を去ってしまったのです。そんな奴ともう一人の仲間を誘つての初めての冒険。それは3人で自転車どこか遠くに行こう…と話がまとまり、夜中に一路南の海へ向けて自転車を漕ぎだしたのです。もちろん親にすることもなく黙って出てきたの。たしか17号から都心へ向かい、国道1号を藤沢あたりまで70キロぐらいは走つたでしょうか。真夜中に子どもたちだけで自転車を走らせていけば、当然不審に思われ、お巡りさんに職務質問で停車させられ交番に連れていかれたのです。すぐに親に無断で出てきた少年たちということが判明して、交番に朝まで留め置きされました。あくる朝交番を開放された私たち。帰るのにもあまりに遠いことがわかって、「ビッチハイクしよう」と決め、国道で載せてもらえそうなたラックに盛んに手を振り、じきにチャリを荷台に乗せてもらい東京まで載せてくれるたラックに出会えたのです。運転席で3人は眠りこけているうちに雨の降る新宿に着き、運転手さんにお礼を言つて降りたことが思い出されます。無謀な子どもたちの冒険も許され、そして大人たちものこんな親切が当たり前にあつた良い時代だったのでした。

終戦直後から駆け足で振り返つた昭和。世の中に活力と希望が満ち溢れ、人々も夢を持てたよき時代。あなたは昭和をどう生きてきたのでしょうか？ 長寿が当たり前になつた現代。あの時の気持ちを手繰り寄せて、これからを元気で「生ききつて」みませんか。 またお会いできる日を楽しみにしています

我が青春 荒野を行く（若き日の思い出）VOL.75-1 坂上 博

NO84, 災い転じて福となす

1, 旅の交差点ニューデリーにて

「赤色のホンダN360」に乗った日本人旅行者はロンドンに向けてユースホステルを旅立って行った。どんな旅になるだろう～と思いつつ無事なる旅であるように願った！

今日は疲れもあるし外はいつもの如く蒸し暑いので、クーラーがある部屋で一人のんびりとインド紅茶「チャイ」をすすりながら、ユースホステルの庭の樹木を窓越しに見て過ごした。

“ふと”、今後の事を考えてみると、大学を休学して旅に出て一年半余り。インドに来て山下さん宅に居候し人生初めての読書ざんまいの生活。元々勉強嫌いの私が宗教本等読みふけり、旅の経験と共にそれなりに人生観を養ったつもりだった。このあとはネパールを旅して帰国しようかな～という思いが頭をよぎる～。

翌朝、オールドデリー（新市街のニューデリー地区と真逆のインド文化が見られる旧市街であるオールドデリー地区、それを総称して首都ニューデリー）にリキシャで向かう。

レッドフォード（タージマハールを造ったムガル皇帝の居城、別名、赤い城）を見学し、城出口正面路を徒歩で散策する。下町らしい風情があり、飲食店、日曜雑貨店、宝石店等があり繁華街で左右には小さな路地が迷路の様にある。さあ～ちょうど昼過ぎ、人混みの中の見学で疲れもあり飲食店でいつものようにカレーライスのランチタイム、満腹感味わう平和なひと時とした。



2, 旅初めての失態

緊急事態発生！！！！

料理を堪能した後、お会計となるが～現地貨幣ルピーが少々足りない、と言うよりも、普段であればその日の使う予定を事前に考えて前日には現地貨幣を用意していた。

勿論常に盗られてもいいようにポケットに入れ、その他の旅費等は身に付けて（腹巻に全財産を入れて、誤っても身から離す事はないのが一人旅の常識である）行動をし、世界共通のドル紙幣の大金紙幣と少額紙幣を混合に持ち、少額紙幣を両替用に使うのだが、それが今回に限り、何故か全てにおいて油断したのである。

いずれにせよその時は慌てた私がよりによって見知らぬ店員に両替商が近くにないかと聞いてしまった。店の前に何人かの両替商が居るからそこで交換すれば～と気楽に答えが返ってきた。

普段は個人の両替商に手を出すことはなく、不注意にもその時は交換に行ってしまった。しかも運悪くその時身に付けていた現金はドル紙幣の大金？であった、それしか持っていなかったのである。

相手は小柄な両替商である。その大金1枚を取り出し交換レート交渉している最中、事件は発生した！

その男はルピーと交換するふりをして大金1枚を握りしめて全速力で逃げたのである。

すかさず私も追いかける全速力で！小さな路地を何度も曲がりくねり、大通りに差し掛かる手前の路地で追いつかんとしたとたん、大男2人に行く手を阻まれてしまった！

ストップ！！目の前の男の手には刃渡り20cm位のナイフ！！追いかければ刺す～と脅かされてしまった！！

まずい！追いかけるのを断腸の思いで踏みとどまる。

残念！思えば「ヤクザ」グループにひっかかったのである！蒸し暑い最中、身の毛がよだつ思いであった～！

3, 帰国に向けた準備に入る

今まで1～2度のナイフがらみ事件はあったが無事にクリアして来た。帰国しようかなとの思いが油断を産んだのだ！

幸いにも大金1枚以外にも所持金があり、その中から1枚を銀行で両替し、店での残金を支払い意気消沈してユースホステルへ帰った。その夜は悔しさで寝つきが悪かった。

しかし、同宿のバックパッカーからは夜の出来事であれば貴方は殺されていたよ～と言われて、命拾いしたと思った。

色々と考えながら朝を迎え次の事を考えることにした。

ネパールを訪ねてエベレストをぜひとも見たい思いがあり、そして日本へ帰国するのだが、残っているお金が足りるかどうか？

バックパッカーたちから情報を集め、ネパールからの航空チケット代等も旅行会社を通じて確認をした。しかし残金だけでは到底、旅費が足りない！

インドから直接、日本へ行くには経由便も含め便数が多く、ネパールからの帰国便等よりも断然経費が安くすむ。結果、ネパール行きを断念し、安価な経由便を探して帰国しようと思う。しかし、それでも足りない旅費をなんとか工面しなければならない。ああ～ため息が出るばかりである！！

我が青春 荒野を行く（若き日の思い出）VOL.75-2 坂上 博

4、「微笑みの国」に立ち寄り 帰国する

旅費の工面をどうするか、悩みに悩んだ末、身に付けている物を売る事にした。一年半前、旅に出る前にアルバイト等で稼いだお金で当時高級カメラであった「ニコン」で、旅の風景等の記録を残そうと思っていた。

それは「東中野の世界旅の仲間」からアドバイスがあり、カメラは当時既に世界的に認知されてプロカメラマン御用達である「ニコンカメラ」を買うのが一番良いと聞いていたからだ。

その理由は「高性能！そしていざとなれば高く売れる！」当時、「清水の舞台から飛び降りる」位の勢いで購入した。

更に予備に「オリンパス」のカメラも、ただしこちらは中古品を購入し、この2台をお供にして旅に出た。そのカメラを売却して旅費にあてるのである。

そして安価な帰国便が旅行会社より提示された。そのコースは「ニューデリーからタイ、バンコク経由東京羽田着」である。

なんと旅行計画にないタイ経由便であり、タイムスケジュールを見るとホテル送迎付きで次の乗り継ぎの東京便まで約1日滞在出来るではないか、一時の豪華旅になるかも！ 残念ではあるがネパール経由の帰国を諦めて、その安価な帰国便のコースに予約を入れた！

さて、その足りないお金の工面で明日からニューデリー市内のカメラ店でどの位で買ってもらえるか？の調査である。

ユースホステルの従業員からの情報を手掛かりに何箇所かの店をあたることにした。なんと店は皮肉なことに、あの事件が起きたレッドフォード地域周辺にある。

しかし、商業地域だけあり、店では日本製のカメラと言う事だけで、驚くことに私が東京で購入した時の価格に近い値段を提示して来る店もあり、当然高値を提示された店で売る事になった。

想定外である為、中古品の「オリンパス」のみを手放した。ラッキー！！

その資金もあてて航空チケットを購入し、2日後には機上の人となった。



機内ではユースホステルで知り合った旅行者仲間、従業員に感謝、勿論、日本山妙法寺住職、留学生山下さんに感謝、感謝の想いが湧き上がってきた。

最後の旅先になる経由地「タイ、バンコク」には夜7時頃到着。送迎バスにて航空会社指定の「ホテル」へ向かう。

車窓からは以前「兼高かおる世界の旅」で見た、チャオプラヤー川沿いの「暁の寺院」「ワットポー」など光



輝く夜景を堪能した。ロビーでは微笑みの国らしく民族衣装を身につけた女性が笑顔でお迎え。

この旅初めて、私にとっては「高級ホテル」での宿泊である。今夜は熟睡できる予感がした！

翌朝、ホテル近辺の朝市を見学した後、再び機上の人となる。短時間であるが、タイの人々の表情がとても温厚で親しみを感じた。勿論帰国することで緊張感が和らいでいたせいもあるのだろうが。

やがて日本の象徴の霊山「富士山」を頭上から拝観しながら羽田に近づき、無事に一年半の旅は終了した！



後日談）帰国した後、下宿先近くの医者健康診断に行くと、その時医者に告げられた！

スウェーデンに滞在中に「アフリカ」行きが決定していた為、現地の医者に勧められた「マラリヤ予防薬」を毎日1カプセル常用していたが、にも関わらずケ

ニアで発病してしまった。

その事を告げると「医者曰く、貴方早く帰国して良かったね～」と！その薬を長く常用してケニアで解熱薬も飲んでいれば、いつ「失明」してもおかしくない状況だったんだよ～と！

「兼高かおる世界の旅」に触発されて世界を自分の目で見てやろうと、それが今後の人生に役立つとの思いで旅に出た。

各国の歴史や遺跡にふれ、人々に接し多くの体験をしてきた。旅で知り合った仲間達とは今も親交があり、互いにその経験を如何に生かすかを自問自答しながら常に前向きに生きている。旅は生死に関わるリスクもあるが喜びも充実感も多く、「乗り越える」「力」と「知恵」と「運」を授ったと思う。

ありがとう「兼高かおる世界の旅」！！！！

*2008年7月から始まった「我が青春 荒野を行く」は今回をもって最終回となります。長い間、執筆ありがとうございました。

坂上さんには、また新たな企画をお願いしたいと交渉中ですので、ご期待ください。

新ひだまりレンタルルームのご案内

「新ひだまり」は、1軒家という特性を活かし『おうちコミュニティスペース』となります。カルチャーのお部屋が2つ、テレワークスペースが2つ、ミニキッチン付きギャラリー（こちらではお茶も飲めます）、食料品や手作り委託品等の販売を行います。

まだオープン前なのでどのような使い方になるかは未定の部分もありますが、皆さんにくつろいでいただき楽しんでいただけるようなスペースを目指します。

【営業内容】

- カルチャー&講座
- 貸ギャラリー
- 貸室&
テレワークスペース
- 貸キッチン
- カフェ
- 安心おとどけ隊事務所

貸室や貸キッチンなどご希望の方は、下見もできますので、まずはご連絡ください。

<住所>

川口市西青木4-3-30

<電話>

ひだまり：048-253-6306

安心おとどけ隊：048-250-5587

<営業時間>

月曜日～金曜日の10時～16時

2F



1F



テレワークスペース

【編集後記】

うちの95歳の母の短期記憶力が最近とみにおぼつかないので「大人の脳トレ計算」と「漢字」ドリルを買ってきた。母は「あらあ、老後に備えて勉強しなきゃ」と喜んでいただけど、老後っていつの事？！！

<友人から回ってきたメールの川柳から第3弾>

- ◆□眼薬を 差すのになぜか 口を開け
- ◆□少ないが 満額払う 散髪代
- ◆□景色より トイレが気になる 観光地
- ◆□厚化粧 笑う亭主は 薄毛症
- ◆□カード増え 暗証番号 裏に書き
- ◆□妻旅行 おれは入院 ねこホテル
- ◆□恋かなと 思っていたら 不整脈
- ◆□深刻は 情報漏れより 尿の漏れ
- ◆□へそくりの 場所を忘れて 妻に聞く
- ◆□腰よりも 口につけたい 万歩計
- ◆□何回も 話したはずだが『初耳だ』
- ◆□婆さんよ 犬への愛を 少しくれ (y)

ひだまり & 志民アシスト事務局

川口市西川口5-2-1-106

【ひだまり】

TEL 048-253-6306

【安心おとどけ隊】

TEL 048-250-5587

ホームページ

<http://www.hidamari-net.jp>

メールアドレス

shop@hidamari-net.jp

詳しい地図はHPをご覧ください

